

# 景況

レポート  
2022年4～6月期調査

## 景気動向の概況

業況DIは前期比  
4.8ポイントの改善

業況DIは新型コロナウイルスの感染状況に落ち着きが見られる中で、経済社会活動の正常化が進み、持ち直しの傾向にあります。全業種の業況DIは▲25.1で製造業が▲16.5、非製造業が▲29.4となりました。来期についても、製造業が▲11.6に対して非製造業が▲25.6となっており、やや改善の状況が続く見通しであります。一方、ロシアによるウクライナ侵攻は更に長期化する見通しで、世界情勢は引き続き不安定な状況にあります。

その他、中国上海のロックダウンの影響による部品供給の停止や物流の混乱、資源価格高騰による輸入物価の上昇、急激に円安が進む為替動向など下振れリスクを数多く抱えており、今後の推移には十分注意する必要があります。

調査要領	合計			小売業			不動産業			サービス業		
	依頼先数	回答数	回答率	依頼先数	回答数	回答率	依頼先数	回答数	回答率	依頼先数	回答数	回答率
	1547社	501社	32.4%	163社	41社	25.2%	116社	27社	23.3%	345社	102社	29.6%
	396社	164社	41.4%	325社	102社	31.4%	202社	65社	32.2%			

調査時点/2022年5月13日～6月1日  
調査依頼先/当庫取引先  
調査方法/郵送調査  
調査対象期間/[今期]2022年4月～6月  
[前期]2022年1月～3月  
[来期]2022年7月～9月  
分析方法/[増加](上昇)したとする企業の占める構成比と、[減少](下降)したとする企業の構成比との差(DI)により分析を行った。  
※DI: Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)

## 全業種総合DI

業況はやや改善、  
来期もやや改善の見通し

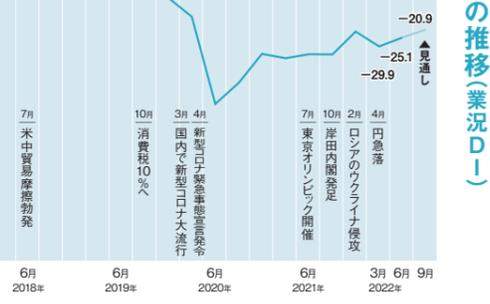
業況DIの推移  
全業種の業況DIは▲25.1でやや改善しました。内訳は製造業が▲16.5で、非製造業が▲29.4となっています。来期もやや改善の見通しです。



資金繰りDI: 人手過不足DI  
資金繰りDIは▲5.8でやや改善、人手過不足DIは▲26.3で「不足」超となりました。来期は資金繰りDIが横ばい、人手過不足DIは「不足」超の見通しです。



10年間の推移(業況DI)

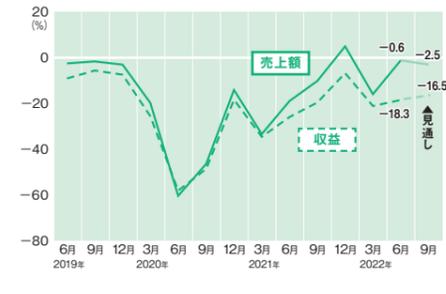


前期 傘  
今期 傘  
見通し 傘

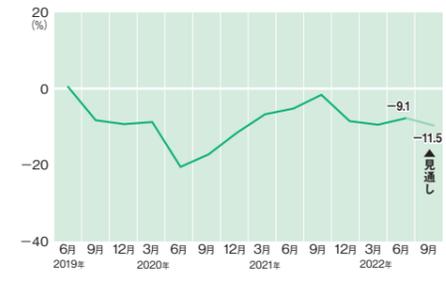
## 製造業

業況はやや改善、  
来期もやや改善の見通し

売上額・収益DI(前期比)  
売上額DIは大幅に改善、  
収益DIはほぼ横ばい

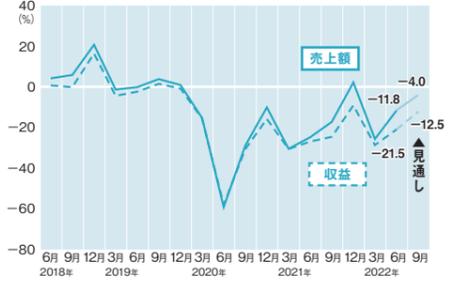


資金繰りDI  
資金繰りDIはほぼ横ばい



前期 傘  
今期 傘  
見通し 傘

売上額DIは▲11.8でやや改善、収益DIも▲21.5でやや改善しました。来期は売上額DI、収益DIともにやや改善の見通しです。



10年間の推移(価格DI)



10年間の推移(業況DI)

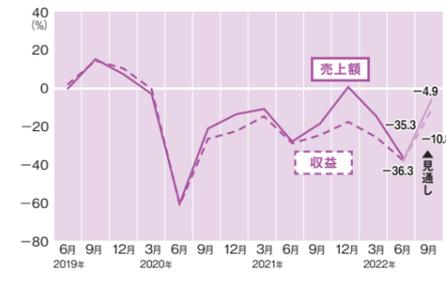


前期 傘  
今期 傘  
見通し 傘

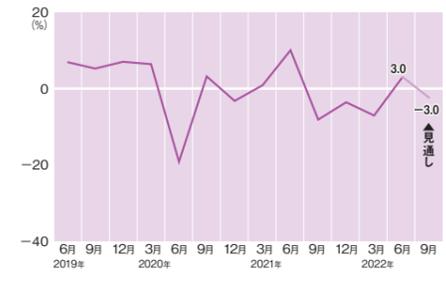
## 10年間の推移(業況DI)

業況は悪化、  
来期もやや改善の見通し

売上額・収益DI(前期比)  
売上額DIは大幅に悪化、  
収益DIも悪化



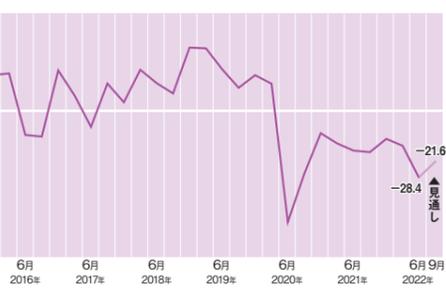
資金繰りDI  
資金繰りDIは改善



## 10年間の推移(業況DI)

業況は悪化、  
来期もやや改善の見通し

売上額・収益DI(前期比)  
売上額DIは大幅に悪化、  
収益DIも悪化



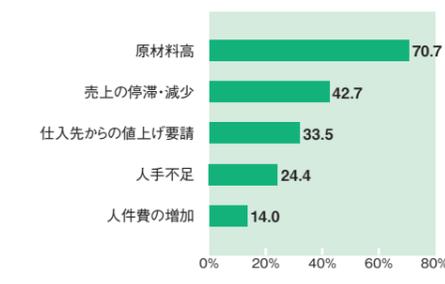
資金繰りDI  
資金繰りDIは改善



前期 傘  
今期 傘  
見通し 傘

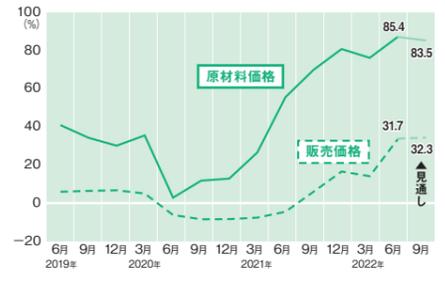
## 経営上の問題点

原材料高に加え、  
売上の停滞・減少



## 価格DI

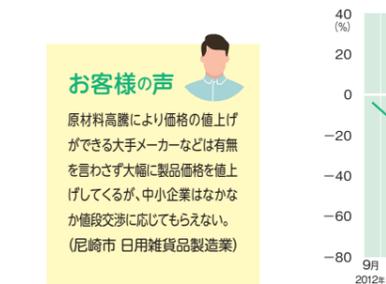
原材料価格DIは上昇、  
販売価格DIは大幅に上昇



## 10年間の推移(業況DI)

業況は悪化、  
来期もやや改善の見通し

売上額・収益DI(前期比)  
売上額DIは大幅に悪化、  
収益DIも悪化

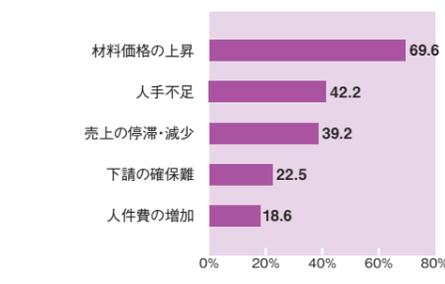


資金繰りDI  
資金繰りDIは改善



## 経営上の問題点

材料価格の上昇と  
人手不足が課題



## 価格DI

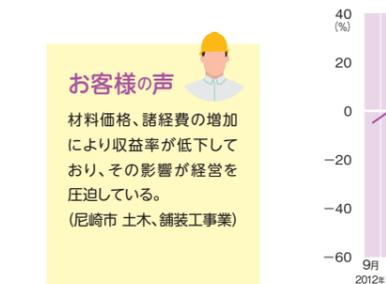
材料価格DIは横ばい、  
請負価格DIは大幅に上昇



## 10年間の推移(業況DI)

業況は悪化、  
来期もやや改善の見通し

売上額・収益DI(前期比)  
売上額DIは大幅に悪化、  
収益DIも悪化



資金繰りDI  
資金繰りDIは改善



業況は悪化、  
来期もやや改善の見通し

売上額・収益DI(前期比)  
売上額DIは大幅に悪化、  
収益DIも悪化



資金繰りDI  
資金繰りDIは改善



お客様の声  
原材料高騰により価格の値上げができる大手メーカーなどは無を言わず大幅に製品価格を値上げしてくるが、中小企業はなかなか値段交渉に応じてもらえない。(尼崎市 日用雑貨品製造業)

お客様の声  
材料価格、諸経費の増加により収益率が低下しており、その影響が経営を圧迫している。(尼崎市 土木、舗装工事業)

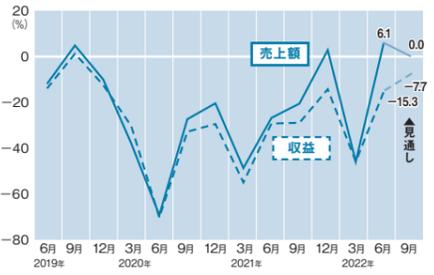


# 卸売業

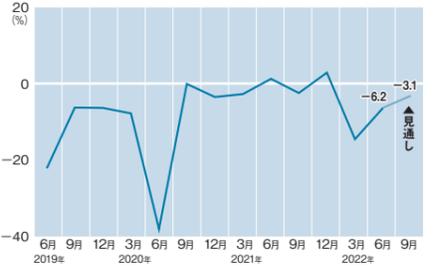
業況はほぼ横ばい、  
来期はやや改善の  
見通し

- 前期
- 今期
- 見通し

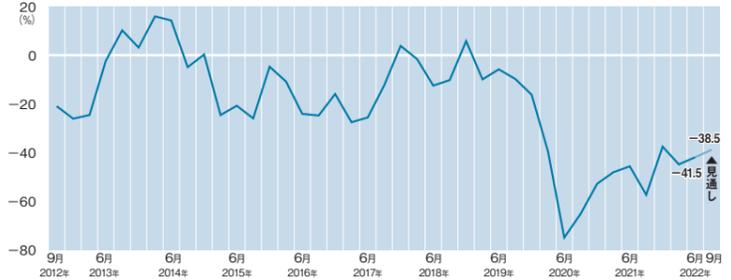
**売上額・収益D-I(前期比)**  
売上額D-Iは大幅に改善、  
収益D-Iは改善



**資金繰りD-I**  
資金繰りD-Iはやや改善

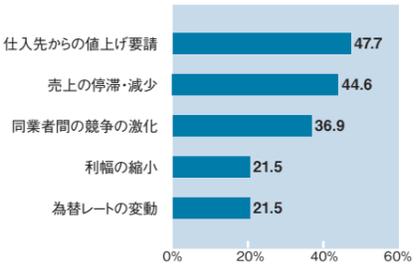


**10年間の推移(業況D-I)**



## 経営上の問題点

仕入先からの値上げ要請と  
売上の停滞が課題



## 価格D-I

仕入価格D-Iは大幅に上昇、  
販売価格D-Iも大幅に上昇



### お客様の声

コロナとロシア・ウクライナ  
情勢による物流の停滞と  
半導体不足、中国工場での  
コスト上昇など、まだまだ  
先行きは不透明です。  
(三木市 卸売業)

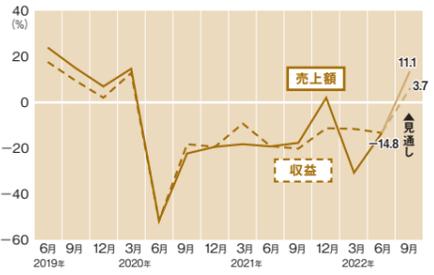


# 不動産業

業況はやや改善、  
来期は改善の  
見通し

- 前期
- 今期
- 見通し

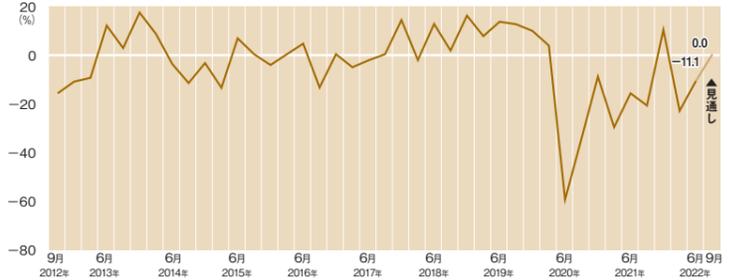
**売上額・収益D-I(前期比)**  
売上額D-Iは改善、  
収益D-Iは横ばい



**資金繰りD-I**  
資金繰りD-Iは横ばい

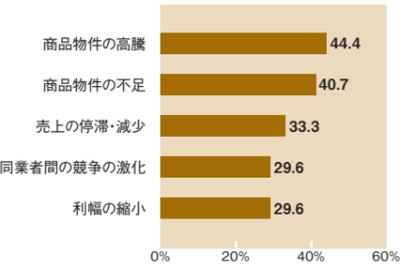


**10年間の推移(業況D-I)**



## 経営上の問題点

商品物件の  
高騰・不足が課題



## 価格D-I

仕入価格D-Iはやや上昇、  
販売価格D-Iはほぼ横ばい

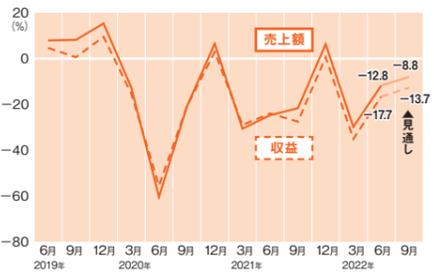


# サービス業

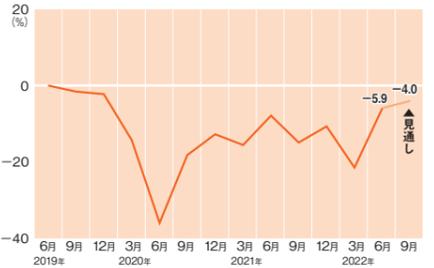
業況はやや改善、  
来期は横ばいの  
見通し

- 前期
- 今期
- 見通し

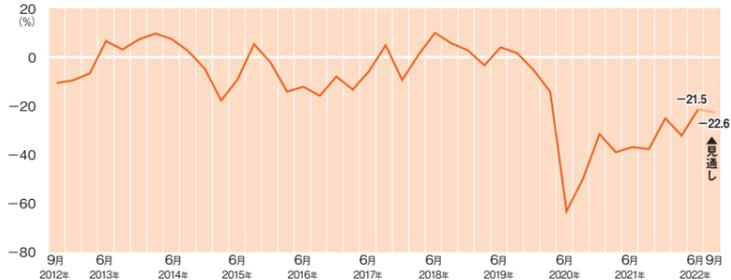
**売上額・収益D-I(前期比)**  
売上額D-Iは改善、  
収益D-Iも改善



**資金繰りD-I**  
資金繰りD-Iは大幅に改善

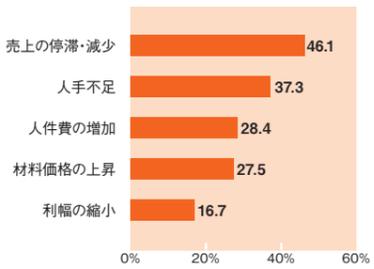


**10年間の推移(業況D-I)**



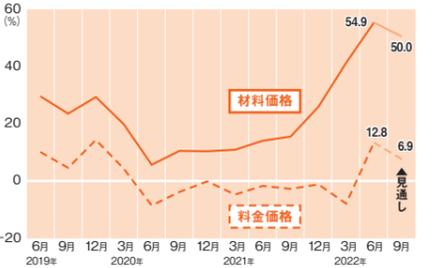
## 経営上の問題点

売上の停滞、人手不足が課題



## 価格D-I

材料価格D-Iは上昇、  
料金価格D-Iは大幅に上昇



### お客様の声

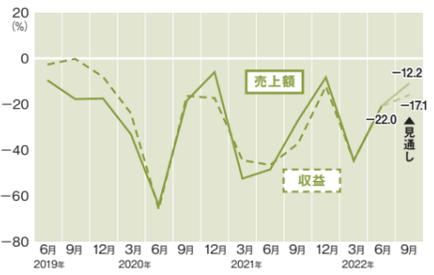
中国コロナ(上海のロックダウン)の影響による貿易の  
停滞、ガソリン、軽油等の燃料  
価格の高騰が自動車業界  
に大きな打撃を与えている。  
(大阪市 自動車整備業)

# 小売業

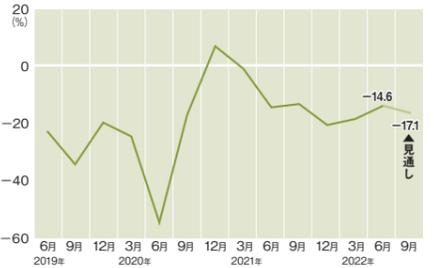
業況はやや改善、  
来期もやや改善の  
見通し

- 前期
- 今期
- 見通し

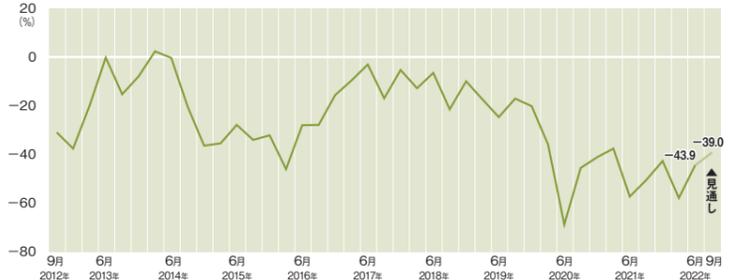
**売上額・収益D-I(前期比)**  
売上額D-Iは改善、  
収益D-Iも改善



**資金繰りD-I**  
資金繰りD-Iはやや改善



**10年間の推移(業況D-I)**



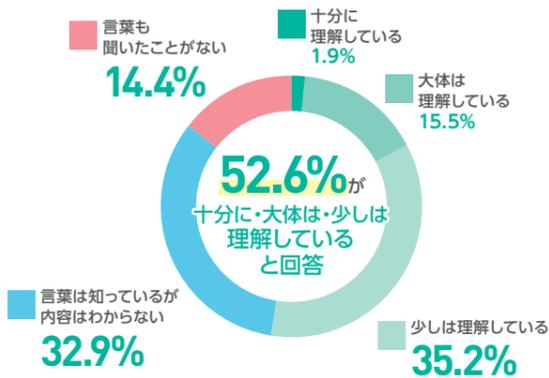
特別調査  
2

DX(デジタル・トランスフォーメーション)推進に関する取り組み状況等について

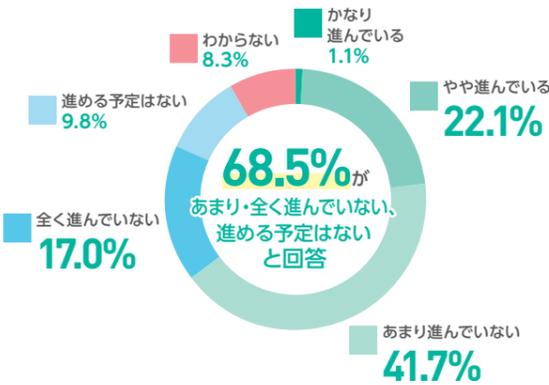
2018年9月に経済産業省より、「DXレポート～ITシステム「2025年の崖」の克服とDXの本格的な展開～」が公表されました。DXレポートの発行から3年以上が経過した現在、「DXの取り組みを始めている企業」と「まだ何も取り組みしていない企業」に二極化しつつあるといわれています。今回、DX推進の取り組み状況についてアンケートを実施いたしました。

調査時期/2022年6月 調査対象企業数/1547社 有効回答数/471社 有効回答率/30.4% ※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合があります。

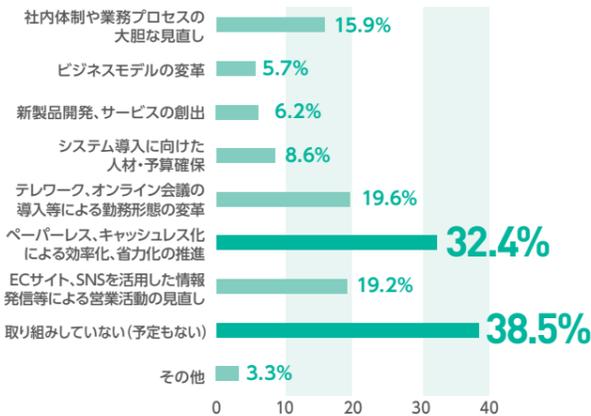
Q1 DXの内容を理解していますか。  
※1つ選択



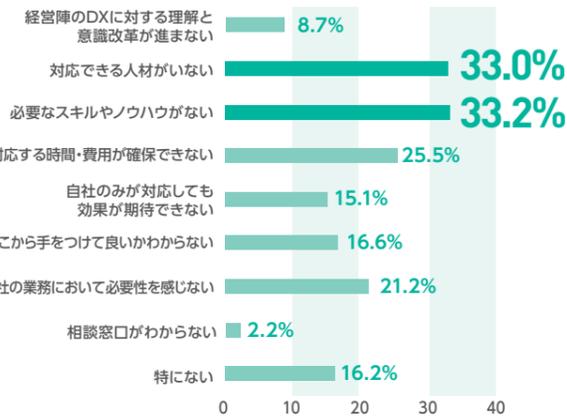
Q2 業務においてデジタル化を進めていますか。  
※1つ選択



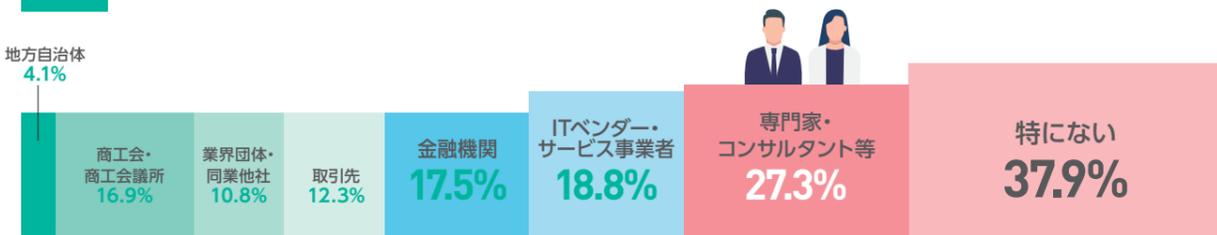
Q3 デジタルを活用した取り組みで既に組み込んでいるもの(あるいは予定しているもの)をお答えください。 ※最大3つ選択



Q4 DXに取り組む上での課題は何ですか。 ※最大3つ選択



Q5 DXを推進するにあたり、どちらに相談したいと思いますか。 ※最大3つ選択



特別調査  
1

混迷する経済社会情勢と中小企業 -コロナ、価格高騰、海外情勢の緊迫化を受けて-

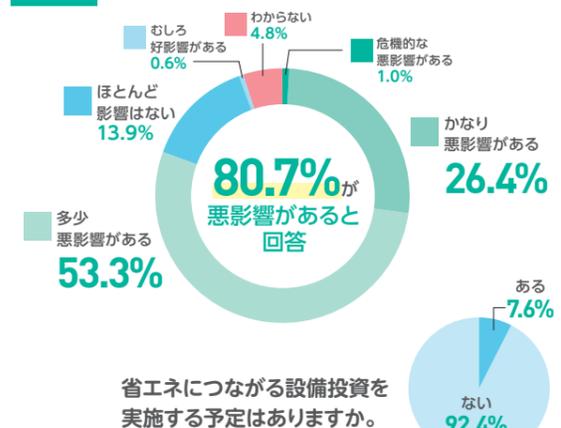
世界的に新型コロナウイルスへの懸念が弱まり、国内景気の持ち直しが期待される中、ロシア・ウクライナ情勢、エネルギー、原材料の価格高騰、円安の進行などの不透明な外部環境は今後の経済動向の悪化要因となっております。今回は混迷する経済社会情勢における事項についてアンケートを実施いたしました。

調査時期/2022年6月 調査対象企業数/1547社 有効回答数/498社 有効回答率/32.2% ※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合があります。

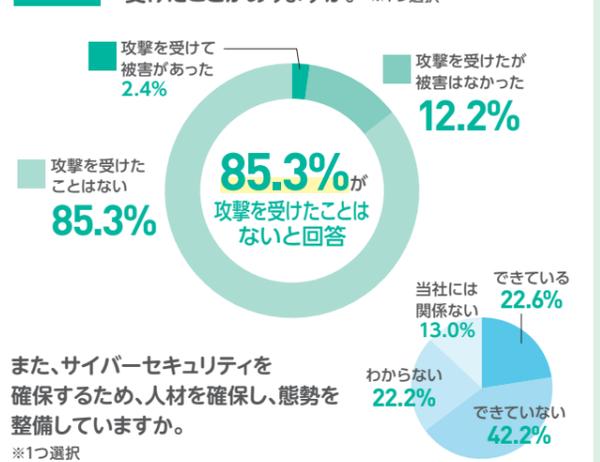
Q1 最近の経済社会情勢について、特に懸念しているものはありますか。 ※最大3つ選択



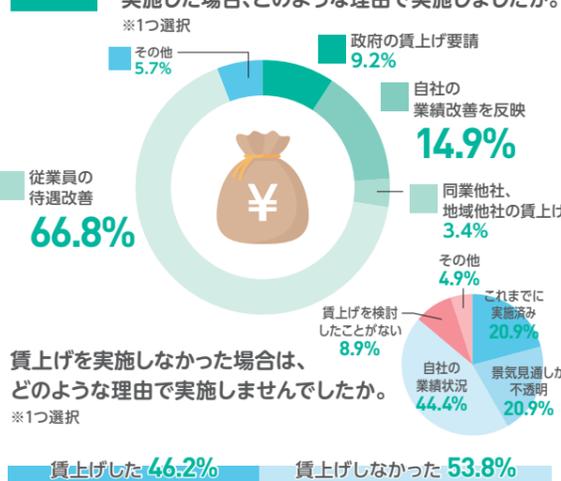
Q2 最近の原油・天然ガスなどのエネルギー価格の上昇により収益にどのような影響を受けていますか。 ※1つ選択



Q3 企業や団体などを標的としたサイバー攻撃による被害が数多く報告されています。被害を受けたことがありますか。 ※1つ選択



Q4 経済社会情勢の混迷の中で政府から賃上げが要請されていますが、今春、賃上げを実施しましたか。実施した場合、どのような理由で実施しましたか。 ※1つ選択



Q5 コロナ禍を受けて、事業承継(M&Aを含む。)についての考え方に変化はありましたか。 ※1つ選択

